

3号機 原子炉建屋地下2階における水漏れについて(続報)

平成17年3月29日

平成17年3月28日午後2時55分頃、定期点検中の3号機原子炉建屋地下2階(放射線管理区域内)において、原子炉隔離冷却系(1)ポンプ室内で、作業員が床面に水溜まりがあることを発見しました。

なお、本事象は原子炉の安全性に影響を及ぼすものではなく、外部への放射能の影響はありません。
[\(平成17年3月28日お知らせ済み\)](#)

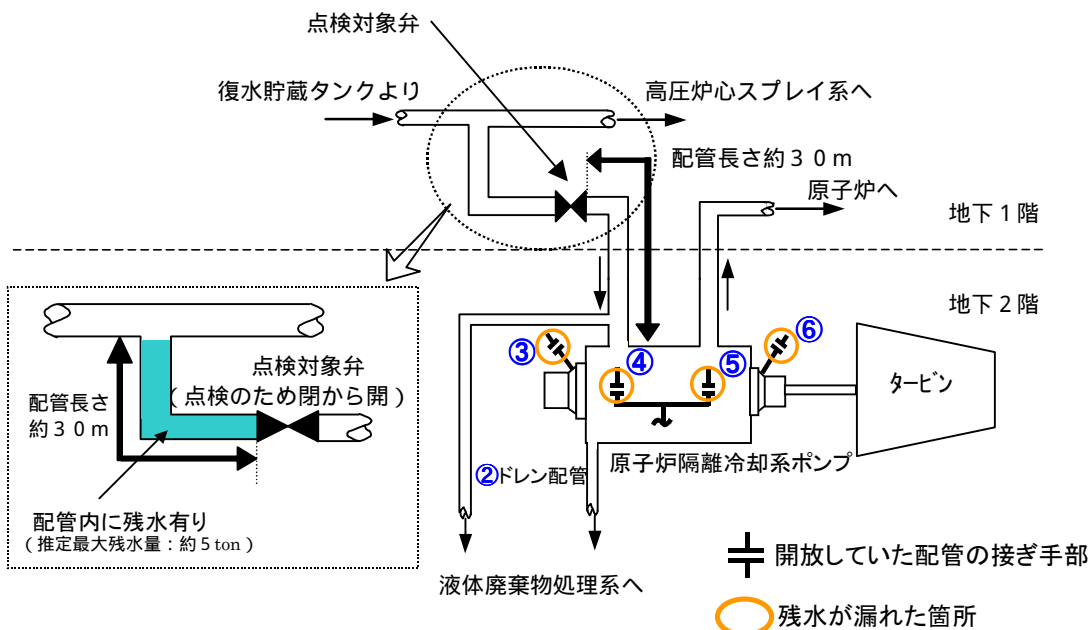
その後、水溜まりについては、速やかにふき取り、適切に処理を実施しました。

水溜まりが生じた原因の調査および再発防止対策について検討を行い、これらの結果がまとまりましたのでお知らせいたします。

1. 水溜まりが生じた原因

原子炉隔離冷却系ポンプにつながる配管(配管外径約220mm)に設置されている弁(下図の①)を分解点検するため、当該弁を手動で開けたところ、弁の上流側の配管内に残っていた水(残水)が、分解点検中のポンプに流れ込みました。この水は、ポンプ周りに設置されている排水用配管(ドレン配管:下図の②)を経て液体廃棄物処理系に排出されたものの、残水の一部が、ポンプ点検のため取り外していた配管(※2)の接ぎ手部(下図の③~⑥)から漏れ、床面で水溜まりになったものと推定しました。

残水がポンプに流れ込んだ原因は、当該弁を手動で開いた際の残水確認が十分でなかったことによるものと考えております。



2. 再発防止対策

今後、残水の可能性のある配管に設置されている弁を点検に伴い開ける場合は、配管内の残水確認を確実に実施するため、段階的に弁を開け、その都度残水確認を行うことを徹底するとともに、その旨を作業手順書に記載することとしました。

- 1 原子炉隔離冷却系は、通常の原子炉への給水系統が使用不能な場合に、原子炉に給水を行い、原子炉水位を維持し炉心の冷却を確保するための系統です。原子炉隔離冷却系ポンプは主蒸気の一部を使って専用のタービンにより駆動します。

※2 原子炉隔離冷却系ポンプの軸封部に異物が付着しないように水を供給するための配管等。

以上